

防衛大臣

江渡 聡徳 殿

沖縄防衛局長

井上 一徳 殿

## 辺野古海域におけるサンゴ礁損傷に抗議し、新基地建設断念を求める申し入れ

辺野古新基地建設工事を前提とした海底ボーリング調査にともない、沖縄防衛局が設置した浮具（フロート）固定用のワイヤロープやアンカー（いかり）が台風の影響で切り離された上、荒波で移動し、サンゴ礁を傷つけていた事実が、市民団体「ヘリ基地反対協議会」ダイビングチームの海底潜水調査（10月15、17日実施）によって発覚した。

ヘリ基地反対協によると、台風襲来前にはフロートとつながっていたワイヤロープが途中でちぎれて潮で引きずられ、サンゴを削っている様子が確認されている。また、台風前の調査では海底にあったアンカーのうち少なくとも4つが、水深約4メートルの水域まで移動してという。状況証拠からして、当該アンカーが移動した際にサンゴ礁を傷つけた蓋然性は極めて高い。

一連のサンゴ礁損傷は、事業主たる沖縄防衛局が台風対策を怠った結果招いたものだ。「台風常襲地帯」「台風銀座」の沖縄にあって、予見義務及び回避義務が同局にあったのは明白であり、厳しく指弾せざるを得ない。

そもそも、政府が金科玉条のごとく用いる「仲井真知事による埋立て承認」は「現段階で取り得ると考えられる工法、保全措置が講じられて、十分配慮されている」ことを前提に、公有水面埋立法第4条第1項に定める環境保全策の承認基準を「適」と判断したものである。

本体工事着工前の関連作業の段階で、辺野古の美ら海を形成しているサンゴ礁が破壊された事実は、あまりにも重い。沖縄防衛局のずさんな管理体制では、十分な環境保全対策を施すことは不可能であるとの証左である。

公有水面埋立法に基づく県知事「承認」の前提が崩れた今、防衛省及び沖縄防衛局には、辺野古新基地建設を即刻断念し、関連作業の中止と辺野古海域に設置したフロートやスパット台船等、一切の資器材の速やかな撤去を強く要請するものである。

2014年10月27日

沖縄県選出・出身野党国会議員「うりずんの会」

衆議院議員 照屋 寛徳

衆議院議員 玉城デニー

衆議院議員 赤嶺 政賢

参議院議員 糸数 慶子